



TITLE:

京大広報 No. 83

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 83. 京大広報 1973, 83: 341-342

ISSUE DATE:

1973-04-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209609>

RIGHT:

京大広報

No. 83

京都大学広報委員会

電話の夜間交換業務の廃止について

1. 夜間交換業務の廃止とその経過について

本学の電話交換取扱者の負荷は近年激増している。これは学内電話機設置台数の増加および日本電信電話公社の全国加入電話機台数の大幅な増加によるものと考えられる。そこで昭和41年度を100とする交換負荷をみると、昭和47年度には162となり、電話交換業務の円滑な処理ができなくなってきた。このため、病院地区を事業所集団電話として切り離し、さらに吉田地区と宇治地区との専用線開設等を行ない、負荷の均等化に努力してきたが、その後交換負荷は増加の一途をたどり、このまま推移すれば、昭和48年度においては適正な交換取扱いが不可能となることは明らかである。従って、本年5月1日より電話交換取扱い時間を下表のとおりとし、現在の夜間および休日等の交換要員を昼間に集中し、増加する負荷を処理させるとともに、最大ピーク時に対処できるようにしたい。なお、最近まで全国の国立大学のうち、病院を除いて、夜間、休日等の交換取扱いを実施しているのは本学と東京大学だけであったが、その東京大学でも昭和47年5月より内線相互間を含めて廃止した。また、本学宇治地区も夜間、休日等の交換取扱いはしていない。このように、電話交換業務の夜間廃止については、全国的趨勢である。

吉田地区電話交換取扱時間
(昭和48年5月1日実施)

| 曜 日 | 局線着信接続 可 能 時 間 | 市外通話申込 可 能 時 間 | 全 交 換 停 止 時 刻 |
|---------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 月 ～ 金 | 8:30～17:30 | 8:30～17:30 | 18:00 |
| 土 | 8:30～13:00 | 8:30～13:00 | 13:30 |
| 日曜・祝日 年末年始 | 停 止 | 停 止 | |

2. 夜間交換業務廃止後の通話等について

- (1) 市内への局線発信および内線相互間の通話は24時間可能であるが、夜間は局線からの着信、市外への発信通話はできない。
- (2) 吉田地区構内電話と病院地区事業所集団電話、吉田地区構内電話と宇治地区構内電話の通話は、従来どおり、それぞれ相互に24時間可能である。
- (3) 夜間交換業務廃止に備え、必要箇所には単独局線電話や公衆電話の新設をすることになっている。

3. 学外からの緊急連絡について

電話交換取扱い時間終了後、学外からの火災、急病等の緊急を要する通話については、751-2108番（本部構内表門衛所）で受け付けし、用件を内線電話で該当者に連絡するが、この場合は次の事項に十分留意願いたい。

- (1) 火災等災害発生の場合または急病で緊急に連絡をとる必要がある場合に限ること。
- (2) 上記の場合においても、まず所属部局の宿直室等と連絡することに努め、通じない場合に上記の専用電話を使用すること。
- (3) 呼び出す相手方の所属氏名、特に内線電話番号については、正確明瞭に告げること。

白浜海の家開設について

このたび、白浜海の家を、下記により開設することになりました。

本学の学生および教職員で利用される場合は、直接体育会へ申し込んでください。

この海の家は、京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内にあり、海の家のおすぐ裏が海で水泳するには最適で、また、景色がよく円月島は有名で

す。臨海実験所には、水族館があり、近くには、熱帯植物園があります。これらは、海の家から徒歩で1分足らずのところにあります。

建物は、木造平屋建で、収容人員は35名です。

記

1. 名 称 京都大学白浜海の家
2. 所 在 地 和歌山県西牟婁郡白浜町
京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内
- 交通 国鉄「京都駅」→紀勢本線→白浜駅下車（所要時間約5時間）白浜駅より明光バス乗車明光バス本社前下車（約13分）明光バス本社前から臨海行バスに乗り、臨海下車（約5分）このほか、大阪天王寺駅から特急、急行が出ています。
3. 開設期間 5月1日（火）～9月10日（月）
4. 所要経費 1人1泊 宿泊費50円 他に食費等実費程度
5. 申し込み 詳細は、本学体育会（西部構内・電話学内2574）に照会してください。（学生部）

防災研究所吉川圭三教授の逝去について



防災研究所吉川圭三教授は、3月9日夜胃癌のため逝去された。享年47才。同教授は昭和37年に理学博士、44年に教授となり桜島火山観測所長の職にあった。昭和30年、桜島火

山の活動開始と同時に現地に赴き、爾来10数年間、観測施設とその体制の整備・確立とともに、噴火予知・火山爆発機構の研究に努め、災害の防止・軽減に寄与された。また、諸学会の委員として火山学の発展に尽力されるほか、任地鹿児島においては、火山噴火予知の調査研究を推進させるために中心的役割を果たしてこられた。

なお、故吉川圭三教授の防災研究所追悼式は、3月24日（土）午後2時から4時まで宇治構内大会議室において行なわれた。